

女性部会研修

女性部会 運営委員 藤枝 美紀 (ランブインオフィス合同会社)

11月19日(火)晴れ、やや寒い一日となりましたが、女性部会会員研修が実施され、協会駐車場を午後9時に添乗員さんの軽快なトークとともに、目的地である北淡震災記念館へ向け出発しました。

1995年1月17日午前5時46分に発生した兵庫県南部地震。マグニチュード7.3、死者6,434名、全半壊した建物24万棟以上の大きな被害を肌で感じ、いつか来る、きっと来るであろう南海トラフ巨大地震への備えと防災意識向上を目的とした研修です。

野島断層保存館のエントランスホールには、国道43号倒壊再現模型が悲惨な出来事を物語っていました。この断層は2000年前に動いたことがあり、長い歳月を経て再び活動し出現したなどの説明を受け、地震で倒壊せずに残ったメモリアルハウスへ。

敷地は広く、家も非常に立派です。当時、築20年の鉄筋コンクリート造りで、基礎には通常の2倍以上のコンクリートを使用。地盤が良かったなどの要因が重なりほとんどダメージを受けていません。断層は家の約1m横を通過したため、元の位置より約20cm持ち上がり、横に約120cm動きましたが、地震後4年間は生活をしていたとのこ

とでした。

活断層ラボでは、逆断層、正断層、横ずれ断層の違い、液状化現象のメカニズムについて学び、震災体験館では、直下型地震の揺れを体験し、各自でいろいろ感じ考えさせられました。

見学を終え、親睦を図るための昼食で淡路牛を堪能し、花さじきで雄大な景色のなか自然に触れ、八淨寺で七福神の大黒天・裕福の神のエネルギーを感じながらの説法に心が洗われる気がし、たこせんべいの里で片っ端から試食をしてお腹が満たされ、午後4時に協会駐車場へ帰着しました。短時間ではありましたが五感を刺激する有意義な研修会となりました。

最後に、昨今の自然災害は予想をはるかに超える被害であり、そんな脅威との背中合わせの生活です。巨大地震では甚大な被害が予想されますが、その被害は計り知れません。ただ、日頃の心構えと知識で結果は違ったものになってくると思います。

友成開発の友成会長、幸集不動産の河内副会長、ご参加いただいた会員の皆様ありがとうございました。

